



ジョン・H・ウォルトン師 聖契神学校特別講義

旧約聖書と古代中東



日時：2018年5月14日（月）

- ◎ どうすれば誠実な解釈者になれるのか?
- ◎ 神は人間を通して目的を達成される。
- ◎ 権威は聖書各巻の著者に授けられている。
- ◎ 「私たちのために（FOR）書かれたが、
私たちに対して（TO）書かれたのではない」
- ◎ 聖書のメッセージは文化を超越するが、伝達形態は文化と結び付けられている。
- ◎ 当時の文化の流れ（文化的文脈）の中に私たち自身を浸す必要がある。

● 近現代

- 資本主義
- 科学的自然主義
- 自由
- 個人主義
- 民主主義
- 愛国心
- 膨張宇宙
- グローバリズム
- 経験主義
- ポストコロニアリズム
- 人権
- ポストモダン主義
- 自然法則
- 市場経済
- ソーシャルメディア

● 古代

- 神の代理人
- 共同体における自己同一性
- 霊的世界、魔術の現実性
- 占い
- 像の仲介的役割
- 神殿の中心性
- 神話的現実
- 天体観測
- 固体の大空と閉じた宇宙
- 王権の役割

- **あるがままに読む**

- 普通は自分自身の「文化の流れ」から読むことを意味する。
- 直観を当てにして読むはいけない。
- 聖書の権威を受け入れるということは、著者の意図を汲み取る責任を自分自身に課すことである。
- 人間の著者が意図したことを理解すること以上にテキストを字義的に取り扱うことはできない。
- 古代の聴衆が訪ねている問いを問わなくてはならない。（私はどこから来たのか？）

- **聖書と古代中東**

- どんな文化や時代にも、それぞれ特有の枠組みがあるが、時代や文化を超えて共通するものも多い。
- 聖書の独自性は、その環境から孤立したところにあるわけではないが、啓示に基づく鍵となる領域においてそれを超越する。
- 私たちは古代のテキストを十分に読むためにその時代の道筋を復元する必要がある。文化的ブローカー（斡旋業者）
- 旧約聖書は生理学、宇宙的地理学、形而上学について、新しい啓示は提供されていない。
- 「借用されている」のではなく「埋め込まれている」。
- 聖書のテキストに古代中東を持ち込んだり、押し付けたりすることではない。（旧約聖書がヘブル語で書かれていることと比較）
- 古代中東のテキストは、聖書テキストについて異なる仕方で考えるヒントを与える。
- 時代錯誤を避けるため、古代世界で人々がどのように考えたのかについての「窓」を提供する。
- 誠実な解釈

- 古代中東を用いる
 - 新しい道具には新しい方法論が必要となる。
 - 文化と無関係なテキストの読みは存在しない。
 - 古代イスラエル人は、私たちに比べれば古代バビロニア人に近い考え方をしている。
 - 包括的な形で、古代中東の文化状況を復元できると期待すべきでない。
 - 自分たちの概念をテキストに押し付けないようにすることをしっかり学ぶことができる。

世界観と文化への窓



比較研究を用いた解釈

- バベルの塔
 - 考古学：焼成レンガ技術； 共同社会
 - 慣用句：天の頂き
 - 宗教建築：ジグラットの機能（名称：ギグヌ）
 - 神殿イデオロギー
 - 大いなる共生
 - 名をあげること
 - ネルガル と エレシュキガル
 - エンメルカルとアラッタ市の領主（言語の混乱）
 - 不遜な王のモチーフ
 - アマル・シン
 - 創世記の修辭的戦略, 神学, 正典



比較研究を用いた解釈

- ヨシュア記の太陽と月
 - ギブオンは東に位置し、アヤロンは西に位置する。
 - 太陰暦では1ヶ月の長さは29-31日である。
 - ひと月の長さは、満月が生じることによって決定される。
 - 14日に満月になると、省略される日の無い月をもたらす吉兆である。
 - 満月がこの他の日になると悪い兆しとなる。
 - “動くな stand” と “とどまれ wait” とは太陽と月が満月のタイミングで、向かい合った位置に見られるかどうかを議論するときに使われた。
 - ヨシュアは、太陽と月が向かい合った位置に現れるように祈った。
 - 吉兆の場合や省略の無い月に起こることに反している。



資料・情報源

